

目次

口 絵

序 都幾川村長 大澤 堯

発刊のことば 都幾川村教育委員会教育長 宮崎 政治

発刊にあたって 都幾川村史編さん委員会委員長 大野 養平

監修のことば 埼玉大学名誉教授 小野 文雄

凡 例

目 次

写真・図・表目次

(一)
(二五)

第二編 原始・古代の都幾川

第一章 遺物から見た編

第一節 旧石器

第二節 縄文石器

第三節 弥生石器

第四節 土師器

第五節 須恵器

第六節 中世石器

第二章 旧石器時代の都幾川

第一節 三万年前の環境

第一節 生活・住居・道具

第二節 都幾川流域の旧石器時代の生活

第三章 縄文時代の都幾川

第一節 縄文時代のはじまり

第二節 縄文時代の生活

第三節 縄文時代の終焉と弥生文化の到来

第四節 弥生時代の都幾川

第五節 比企の弥生時代

第六節 弥生時代の遺跡分布

第七節 集落と生活

第八節 集落と生活

第九節 集落と生活

第十節 集落と生活

第十一節 集落と生活

第十二節 集落と生活

第十三節 集落と生活

第十四節 集落と生活

第十五節 集落と生活

第十六節 集落と生活

第十七節 集落と生活

第十八節 集落と生活

第十九節 集落と生活

第二十節 集落と生活

第二十一節 集落と生活

第二十二節 集落と生活

一五

一六

一九

一九

二一

二二

二七

三八

三八

三九

四〇

四〇

四五

四五

四九

第二節 新たな文化の到来

舞台遺跡の集落／唯一の集落衆生ヶ谷戸遺跡
寺院の建立・寺谷廃寺の造立／
新しき焼き物須恵器生産の開始／
埼玉での須恵器生産の開始

五四

五 集落と生活

仏教の浸透と瓦塔／多武峯の瓦塔／山野・路辺への造塔
発掘された集落の姿／特異な集落泉原遺跡

九五

第二編 古代・中世の都幾川

第一章 奈良・平安時代の都幾川

第一節 律令制下の都幾川とその周辺

武蔵の国造／武蔵国の郡郷／公民の負担／
富裕な郡司、壬生吉志福正／秩父神社の神階と式内社／
秩父牧と秩父氏／武蔵武士の登場

六一

第一節 鎌倉幕府と武蔵武士

治承・寿永の内乱と畠山重忠／畠山重忠の栄光／
畠山重忠の悲劇／畠山重忠の人物評価／
源義賢の遺臣と秋吉神社の流鏑馬／
都幾川周辺の武士の動向／故郷を離れた武蔵武士／
都幾川とその周辺の郷・村

九九

第二節 慈光寺とその周辺

鎌倉幕府と慈光寺／畠山重忠と慈光寺／
慈光寺の宝物

一一六

第三節 鎌倉時代の社会と文化

都幾川村とその周辺の寺社／鎌倉街道と慈光寺／
板碑の出現／板碑の形態／板碑の本尊／造立の目的／
鎌倉期の都幾川村の板碑

一二八

第二節 古代の社会と文化

慈光寺の創建／慈光寺の発展／仏教説話と慈光寺

七六

一 遺跡と郡・郷

遺跡と遺跡群／郡と郷

八三

第四節 慈光寺の遺構と遺物

開山塔の造立／剣頭文軒平瓦／剣頭文瓦の盛行／
発掘された建物跡／中世慈光寺の発展／
中世慈光寺と陶磁器／埋葬と中世医光寺／火葬／
土葬／医光寺再興

一四〇

二 南比企窯跡群

須恵窯窯跡群の形成／南比企窯跡群／生産品の種類／
須恵器の流通

八八

第三章 南北朝・室町時代の都幾川

三 古代寺院の創建

仏教の伝来と寺院の創建／国分寺の創建と仏教の浸透／
医光寺の創建

九四

一五五

四 多武峯の瓦塔

第一節 南北朝内乱の展開

一五五

建武政権の成立と解体／南北朝内乱と都幾川周辺／

岩殿山合戦と平一揆の乱／鎌倉府体制下の武蔵国

第二節 享徳の乱とその前後

一六五

永享の乱と結城合戦／享徳の乱と太田道灌の活躍／

山内・扇谷両上杉氏の抗争と北条早雲の登場

第三節 南北朝・室町時代の社会と文化

一七三

写経の盛況／板碑の隆盛／宝篋印塔／五輪塔／

乱世の慈光寺とその周辺

第四節 遺跡と遺物から見た室町時代の都幾川

一八一

慈光寺山内の僧坊跡群／掛かりの瓦 瓦の技術革新／

本瓦葺き堂の創設／分布とその意義／

中世の瓦葺き建物の性格／村内出土の中世瓦／

境目の城郭群

第四章 戦国時代の都幾川

一九五

第一節 後北条氏の武蔵国支配

一九五

北条氏綱の武蔵国進出と扇谷上杉氏／

河越合戦前後の政治状況／後北条氏の武蔵国支配／

戦国争乱と都幾川周辺

第二節 中世の終焉

二〇四

松山城主上田朝直／松山城主上田長則・慶定／

鉢形領定峰の触口斎藤氏／

「物無事令」と総動員体制／後北条氏の滅亡

第二節 戦国時代の社会

二二八

修験道の展開（慈眼坊と山本坊）／

板碑の衰退と民間信仰板碑／月待供養の板碑／

庚申待供養の板碑／念仏供養の板碑／

発見された墨書銘重葺／都幾川村域の神社

第四節 遺跡と遺構から見た戦国時代の都幾川

二三〇

大築城／慈光寺焼き討ち

第二編 近世の都幾川

二三七

第一章 江戸幕府の成立と都幾川

二三七

第一節 都幾川を治めた領主と支配

二三七

一 徳川氏の関東転封と都幾川

二三七

二 玉川陣屋と幕府直轄領村々の支配

二三七

代官の役割／都幾川を支配した代官たち

三 さまささまな領主たち

二四〇

元禄の地方直しと旗本の入封／都幾川に入封した旗本／

牧野氏／金田氏／佐久間氏／吉良氏／石黒氏／

肥田氏／島田氏／旗本領と相給

四 文書による在地支配

二四五

平農分離と刀狩／文書による支配

五 領主支配と村

二四八

鉄砲の管理／都幾川での鉄砲の利用

六 触と法度

二五〇

幕府の百姓統制／肥田氏の法度

第二節 検地と村

二五二

近世の検地／都幾川の検地／

天正二十年日慈光寺領帳／慶長一年検地／

慶長二年桃木村検地帳／寛文八年検地

第三節 村々の耕地と農民構成

村々の概観／村高の増加と新田開発／

慶長二年桃木村の耕地利用／

慶長二年桃木村の農民構成／椿・漆・綿の生産／

寛文八年桃木村の耕地状況／

寛文八年桃木村の農民構成／本郷村の耕地と農民／

別所村の耕地と農民／番匠村の耕地と農民構成／

平村の耕地と農民構成／大野村の耕地と農民構成

第四節 村に課された負担

さまざま負担／本途と年貢割付状／

大野村の年貢の変遷／旗本領の年貢／剣見法と定免法／

災害と減免要求／助郷

二五九

三 文書の保管

馬場村／田中村／榎平村／大野村

四 村議定

文化十年の別所村議定／安政四年の本郷村の議定／

慶応元年の馬場村の議定／慶応四年の平村奥畑組の議定

第二節 慈光寺山麓の平宿

平宿の宿並／宿役と旅人宿

第四節 村と家

一 宗門改めの制度化

(一) 宗門改めと寺請制度

宗門改め／寺請制度

(二) 宗門人別改め帳の現在状況

二 人口変動と村びとのあり方

(一) 家数・人口の変化

大野村／榎平村／番匠村／平村

(二) 世帯の規模と構造

(三) 婚姻

通婚圏／大野村／平村／婚姻のあり方

三 家の維持と村

小農自立／相続と潰れ

幕末の村方騒動

三二三

三二四

三二六

三二八

三二八

三二八

三二八

三二九

三三一

三三一

三三一

三三四

三三五

三三〇

第二章 村の成り立ちと仕組み

第一節 近世の村と仕組み

一 近世の村の成立

二 村と組み

三 自治的な村落

四 村役人(地方三役)

名主／名主の承認とその役割／組頭・百姓代

第二節 村役人と村びと

一 家と由緒

「旧家書」／麓十六家／大野村の森田家

二 近世の大野村と森田家

近世初期の大野村／近世中・後期の大野村／

二九九

二九九

二九九

二九九

三〇一

三〇一

三〇四

三〇九

三〇九

三〇九

三二〇

第三章 山の利用と暮らし

第一節 山林の占有と山稼ぎ

一 江戸時代における林野の占有形態

江戸時代の林野とは

三二三

三二三

二 山稼ぎの諸形態	三三四	炭焼き人の選定／炭木の伐採／炭焼き／ 里出し（村出し）／付出し	三七八
第二節 林業と地域社会	三三八	第三節 御用炭上納の処理	三七九
林業経営と見立入／木炭の売買／林地の賃入と年季売り		「御酒代」の下付／「粉炭」の下付／享保二年の炭焼き勘定	
第三節 入会地利用とその変遷	三四四	第五章 神社と信仰	
山と生活／入会地と山稼ぎ／入会山資源の売却／ 榎平村大目分炭山の年季売り／立木利用と村運営		第一節 村域の神社	
第四節 幕府の御林と村	三五〇	一 幕府の神社制度の整備	三八一
一 御林の成立と御用炭役	三五〇	統一政権の成立と神社／寺院の統制と本末制度／ 神社・修験の統制／村内神社の概観	三八一
御林／御用炭役と御炭山／御筋木山／ 旗本牧野氏と御立山		二 村における寺院に役割	三八三
二 幕府の御林政策と村びとの資源利用	三五五	村における神社の役割／寺院と檀家／寺院と金融	三八三
江戸近国における御炭炭生産／ 文化期 大野村御林での雑木処分／ 文政・天保期の御林炭の生産／ 弘化・慶応期の御林炭生産		三 紛争解決と寺院	三八五
三 御林の管理と育林	三六一	紛争の調停と寺院／宥免願いと寺院／紛争解決と神社	三八五
村方の御林認識と御林管理／御林への植林と村人／ 文化 二年皆伐後の植林／幕末期の植林讀負		四 村域における「入寺」慣行の実態	三八七
第四章 御用炭の負担	三六二	「入寺」慣行／村域における「入寺」事例	三八七
第一節 御用炭の変遷	三六九	五 村人の信仰と講・村外宗教者	三九〇
御用炭の由緒／原木の枯渇と保護／御用炭の再開／ 御用炭の増加／御用炭の上納免除		講／さまざまな講と金融機能／富士講／ 村々を廻る宗教者／諸勸化	
第二節 御用炭の上納までの過程	三七五	第二節 慈光寺と靈山院	三九二
		一 近世寺院としての慈光寺	三九二
		慈光寺の由緒／慈光寺への信仰	三九二
		二 慈光寺の経営	三九五
		三 靈山院の経営	三九六
		四 慈光寺と靈山院の対立	三九七
		第三節 修 験	三九九

一	多武峯	三九九	祭礼と「酒狂」／若者と祭礼／祭礼と取り締まり
	由緒と来歴／慈眼坊攝衆寺		
二	山本坊支配と地域の修験	四〇〇	第六節 札所巡りの流行と石造物の造立
	大先達山本坊		札所巡りの流行と慈光寺／石造物の造立
三	修験と村	四〇〇	第六章 社会の動揺と支配の再編
	大柗地区の修験／修験左京の一件		
第四節	神 社	四〇三	第一節 伝馬騒動と社会の動揺
一	神社の存在形態と維持・管理	四〇四	一 明和の伝馬騒動と都幾川
	神社の存在形態／神社と氏子／本郷村山王森一件／鍵元		騒動の発端と経過／伝馬騒動と村に残る記録
二	神主と氏子	四〇七	二 村落構造の変化
	大野村妙見社と神主堀口氏／神主堀口氏の受官		階層分化の進行／大野村の土地所有
三	由緒の者達と神社	四〇八	三 村方騒動の多発
	萩日吉神社と村人／太々神楽		村方騒動／奥畑組の村方騒動
四	京都吉田家と地方神社	四一一	第二節 農業の発展とさまざまな生産活動
	吉田家と神道裁訴状／神葬祭絵巻／朝廷からの官位取得		養蚕／紙漉き／石灰焼き／水車稼き
第五節	村と祭礼	四一三	第三節 旗本の家政改革と村々
一	都幾川の祭礼	四一三	旗本の家政改革と村々
二	祭礼と祈願	四一四	窮乏する旗本／村に課される負担／村の対応／
	流行病と送神祭／早魃と雨乞い		菟字と帯刀／旗本の日常生活
三	祭礼における役割や費用	四一五	第四節 近世後期の農村支配機構の再編
	費用の分担・運用／祭礼の「役者」／		農村状況の変化／関東の治安維持対策／
	諸道具の維持・管理		都幾川地域の組日村／改革組日村の役割
四	祭礼と村・地域の秩序	四一六	第七章 村の生活と文化
	さらさら獅子舞の行程変更／祭礼と文書管理		
五	萩日吉神社の流鏝馬	四一八	第一節 村外者との交流
	流鏝馬神事と由緒／流鏝馬と当番／神役と吉田家		一 出村の契機
六	祭礼をめぐる諸事件	四二〇	奉公／江戸稼ぎ／旅の流行／往来手形／道中日記／

山口平二郎の旅
二 村に来る人びと
こぜ・座頭／巡礼者の保護
四六〇

第二節 庶民教育の展開
一 寺子屋の普及
四六一

二 寺子屋師匠と筆子
四六二

三 教育内容と教科書
四六六

第三節 文化人の往来と諸学・諸芸の流行
一 文化人の往来
四六八

奈佐勝平／亀田鵬斎／鈴木牡丹／福島東雄／

斎藤鶴巖／海保青陵／竹村立義／清水浜臣／渡辺涉園

二 諸学・諸芸の流行
四七四

(一) 和 算
四七四

(二) 生 花 (插花)
四七五

(三) 武 術
四七六

劍術／弓術

(四) 俳 諧
四七九

俳諧の流行／俳額の奉納

第四節 在村医如達堂と小室家
四八三

在村医小室家／地域医療の実態と門人／文化人との交流

第八章 維新前夜
四八七

第一節 激動する社会と増大する村々の負担
四八七

幕末の社会と村人の情報収集／品川台場負請金の上納／
文久改革と兵腑の徴発／和宮降る嫁と助郷役の賦課／
継ぎ立ての準備／動員された人足と経費

第二節 武州世直し一揆と都幾川の村々
四九九

武州世直し二揆の勃発／押し寄せる一揆と都幾川の村々
第三節 戊辰戦争下の村々
五〇五

一 岩鼻代官所の銃隊人足取り立て
五〇五

銃隊人足取り立てと大野村の免除願い／
大野村の銃隊人足差し出しの顛末
五〇八

二 東征軍の進軍と村々の負担
五〇八

東征軍と都幾川の村々
三 旗本領主家族の疎開
五〇九

番匠村の領主佐久間氏と幕末／疎開の準備／
疎開の決定とその道中／番匠村での疎開生活／
再び江戸へ／領主への批判

第四編 近・現代の都幾川

第一章 明治初期の都幾川
五二五

第一節 明治初期の村政
五二五

一 区戸長制下の村政
府藩県三治制と村域の支配県／
明治初年の畜場組合体制／戸籍法と戸籍区の設定／
入間県の成立と大・小区制／区戸長制の変遷／
区戸長制下の公議機関／民費とその賦課方法

二 三新法下の村政
五二六

三新法の制定／戸長役場の設置／町村会と町村財政／
連立戸長制の実施／徴兵制と徴兵急避／
明治初期の警察区画／種痘の普及とコレラの防疫

三 地租改正と地域の対応	五四五	一 三か村の町村政状況	五七七
壬申地券の発行／地租改正事業の開始／地位等級の調査／		町村制の実施／町村の合併と三か村の成立／町村制施行後の町村状況／村長および村吏員／村会と村会議委員／村の財政状態	
耕地改租事業の完了と山林原野の改租		二 警察・消防と軍事	五九二
第二節 明治初期の産業	五五三	巡査駐在所の設置／消防組の設置／伝染病と防疫対策／トラホーム・花柳病の予防／徴兵制の強化／	
一 農業と蚕糸業	五五三	日進・日露戦争と軍事援護／在郷軍人会の発足と活動	
農産物の生産状況／製糸会社の設立／蚕糸組合の結成	五五三	第二節 明治後期の産業	六〇三
二 商業と鉱工業	五五七	一 農業と蚕糸業	六〇三
明治初期の酒造業／石灰・大理石の採掘事業	五五七	農業技術の改良普及と生産状況／	
三 道路交通	五五九	農会と信用組合の設立／耕地の小作化と小作賃行調査／優良蚕種の製造と乾繭場設置	
明治初期の道路の状況／村域の主要道路／		二 商工業と水車	六二三
明治初期の運輸		和紙の生産／小川絹の生産と都幾川の絹織物／	
第三節 学校教育の始まりと文化	五六二	明覚地区中心の絹織物／雨戸中心の建具生産／	
一 小学校の設置	五六二	河川法の制定と水車営業	
郷学校の設置／学制発布と小学校の設置／		三 林業	六一五
学期の教育／教育令期の教育	五六二	乱伐から規制へ／「森林法」の制定と公有林の育成	
二 文明開化と生活の変化	五六六	四 道路の改修と馬車の開通	六一七
文明開化と風俗の変化／文明開化と食生活／		道路の改修／道路法の施行／馬車の開通	
石油ランプで夜も明るく／駕籠に代わって人力車／		第三節 義務教育の進展と社会の諸相	六二二
旧暦から新暦に		一 尋常小学校の開校と就学率の高まり	六二二
三 神仏分離と国民教化	五七二	小学校令下の教育／教育勅語の発令と御真影の下賜／	
神仏分離と廃仏毀釈／土地令と寺社への影響／		就学率の上昇と校舎の増築／義務教育年限の延長	
祭政一致と国民教化／神葬祭		二 この期の社会諸相	六二五
第二章 明覚・平・大柵三か村の成立	五七七	慈光寺の保存／神社の由緒調べ／流鏝馬の再興／俳句	
第一節 町村合併と三か村の成立	五七七		

第三章 大正・昭和初期の都幾川

第二節 大正・昭和初期の村政

一 地方自治制度の確立

郡制と郡役所の廃止／町村制改正と不通選挙制の実施／昭和初期の村財政

六三〇
六三〇

二 戦時体制への始動

シベリア出兵と村域からの出征／害虫の予防と保健／軍事体制への協力

六三七

〔コラム 学校にあつた文化財〕

小室勤校長の肖像画／明覚小学校校歌／平小学校校歌

六四三

第二節 大正・昭和初期の産業

一 農村の疲弊と経済更生運動

不況下の農村経済／不況対策事業／経済更生運動の展開／平村更生運動の組織化と展開／大柵村の経済更生事業／小作慣行調査

六四六
六四六

二 商工業の進展

商工会の設置／関東大震災と建具生産の伸長／大正。昭和期の酒造業

六五七

三 森林組合の結成と植栽事業の進展

森林組合の結成／植栽事業の進展／柏皮の生産／砂防事業の開始

六六二

四 交通・通信の発達

郵便制度の変遷／電信と電話／バスの開通／八高線の開通

六七二

第三節 初等教育の充実と文化

六七八

一 就学生の増加と校舎の増築

御真影奉安所の設置／小学校教育の充実／就学生の増加と大柵小学校の高等科併置／小学校高等科二年と中等学校への進学

六七八

二 青年教育の充実

実業補習学校の設置／公民学校と改称／青年訓練所の設置／青年会と処女会

六八二

三 神社の整理と文化

古社寺保存法と慈光寺経の修復／神社の整理と幣帛料供進／電灯の点灯

六八八

〔コラム 平和の親善使節 青い目の人形〕

六九五

第四章 戦時体制下の都幾川

第一節 精動運動と翼賛体制の成立

翼賛運動の展開と部落会の活動／選挙粛正運動の組織化／選挙粛正の実施／国民精神総動員運動／翼賛会の設立／翼賛会支部と部落会・隣組／翼賛壮年団の発足／二つの翼賛選挙

六九七
六九七

二 戦時行財政の展開と貯水池建設問題

分与税と参与条例／貯水池の建設

七〇七

第二節 戦時体制への協力

一 満州移民
満州事変以前の移民政策／満州開拓事業の始まり／日中戦争の全面化と満蒙開拓青少年義勇軍

七一一
七一一

二 日常生活の中の戦争

七一一
七一一

第五章 民主政治下の都幾川

- 飛行機献納と国民貯蓄運動／防空演習と警防体制／疎開の受入れ／供出と勤労奉仕
- 三 軍隊と都幾川村
兵士の送付／戦死した人々／国民義勇隊の発足／拓部隊による森林伐採／陸軍予科士官学校の疎開
- 第二節 戦時体制下の産業
 - 一 食料の増産と供出
増産奨励策と供出運動
 - 二 物資の統制と配給
食糧の不足と配給制／ガソリン一滴血の一滴／生活物資の配給制度／金属の供出
 - 三 林業と木工業
木材需要の増加と森林法の改正／戦時体制下の木材の戦時統制と木材統制法の成立／民有林の非常伐採計画／戦時体制下の松根油の生産協力／戦時下の建具と織物
- 第四節 国民学校の発足と社会教育団体
 - 一 国民学校の発足と戦時教育の強化
昭和初期の教育／国民学校の発足と戦時教育の強化／青年学校への統合／学童疎開と敗戦
 - 二 社会教育団体の統合
社会教育の始まり／愛国・国防婦人会等の設置／大日本婦人会への統合／青少年団の結成／青少年団体の統合

七六六

第六章 都幾川村の誕生とその後の経過

- 第二節 村政の民主化と地方自治
 - 一 戦後初の選挙と行財政改革
戦争の敗北／新憲法と地方自治法の制定／女性参政権と戦後初の選挙／地方行政の民主化
 - 二 貯水池問題の再燃
 - 第二節 戦後改革期の農業と林業・木工業
 - 一 農地改革と農協の共同化
農地改革の実態／農業協同組合の設立／生活物資と農業生産状況
 - 二 村内の開拓地
開拓までの経過／「モデル」地区としての開拓／開拓地への入植
 - 三 林業と木工業
戦後混乱期の林業と薪炭の増産／乱伐による水害と造林奨励／新森林法の施行と本村／戦後の建具産業の発展と産地化
- 第二節 教育の民主化と六三制
 - 一 民主教育と六三制の発足
軍国主義教育の払拭／中学校校舎の建築問題／教育委員会の発足／小川高校玉川分校と玉川工業高校の成立
 - 二 社会教育の振興
公民館の設置／PTAの結成／新生青年団と婦人会／4日クラブ／文化財の保護とその指定

七九九

八〇一

第一節 三か村合併と新村政の展開	八〇一	第四節 教育の充実と発展	八四一
一 都幾川村の誕生	八〇一	一 学校教育の充実	八四一
合併の背景／三村合併と玉川村合併問題		大綱第一小学校の独立／平小・中学校のプール完成／	
二 合併後の村政と議員選挙	八〇四	三 中学校の統合と校舎の新築／	
合併後の村政／市川村政と三十八年村議選		学校給食センターの建設／明覚小学校大附分校の閉校	
第二節 都幾川村の発展	八〇八	二 特色ある学校教育	八四四
一 村民憲章の制定と計画行政の実施	八〇八	遠地教育研究会／地域文化の伝承活動／保育事業の開始	
都幾川村の発展／村民憲章／総合振興計画の策定／		幼保一体保育の展開	
広域行政の指定村／比企広域市町村圏組合／		三 社会教育の展開	八四七
比企土地開発公社／広域消防		生涯教育の展開／中央公民館の設置／	
二 住宅団地の増加と社会施設の整備	八一四	埼玉国体と聖火の採火／スポーツ団体と体育施設の整備	
景観住宅の建設と民間住宅団地の造成／		四 都幾川村の文化財とその整備	八五三
都幾川 玉川水産企業団の設立／		文化財の整備／文化財の焼失／文化財の修復	
小川地区衛生組合／保育園・保健センターの整備			
第三節 産業と物産・観光	八二七	都幾川村史編さん事業刊行物	八五九
一 農業と商業	八二七	資料提供者・協力機関	八六〇
農業協同組合の合併／商工会の活動と課題		都幾川村史編さん関係者	八六二
二 林業と木工業	八二二	あとがき	
高度経済成長期の林業／林業の最近の傾向／			
高度経済成長期と其の後の建具産業			
三 砂防工事と物産・観光	八二七		
戦後の砂防工事／土砂災害防止対策／			
観光協会の活動／物産・観光の諸事業／ゴルフ場の建設			
四 交通・通信網の整備	八三三		
電話の自動化／道路の改良と舗装／			
奥武蔵グリーンライン／			
八高線のディーゼル化と幻の越年平線／村営バスの運行			